

咲
か
ん
て
う
い
の
ち



昨今、テレビや週刊誌などでは、新たな供養の方法として、直葬・樹木葬・海や宇宙への散骨などが持てはやされています。マスコミは、これらの儀式が斬新で興味をあおって報道していますが、実際は極端な供養であることを留意しておかなければなりません。お釈迦様は「法華經こうけい」如來神力品第二十一において、「もしは園そのの中においても、もしは林の中においても、（中略）この中に、皆、塔とうを起てて供養すべし」と説いておられます。法華宗では、その教えを継承して、お盆やお彼岸では塔婆とうばを立ててご先祖様を供養しています。

パソコンやスマートフォンが普及するようになって、私達の生活は一変しました。以前では、分からぬ事柄について、辞書や辞典を引く必要がありました。現在では、インターネットを通じて検索すれば、即座に解答が出てきます。同じように、ご先祖様の供養もより簡潔な供養が求められています。

しかし供養方法に限っては、時代の変化に対応するのではなく、お釈迦様の説かれた通りに行なわなければ供養になりません。時代の流れに沿つた供養は、気がつけばどんでもない方向へと向かっていく可能性があるのです。

今年のお盆はお墓参りだけでなく、ぜひとも各寺院に参詣し、塔婆を立ててご先祖様を供養して、南無妙法蓮華經とお唱え致しましょう。

